

わが

新庄開府400年を記念して
次の100年のまちづくりを

はじめに

新庄市は、山形県北部の新庄盆地のほぼ中央に位置し、四方を山地に囲まれ、北東部には奥羽山脈（神室連峰）が連なるとともに、西部には日本三大急流の最上川が流れ、その支流となる升形川や泉田川の扇状地に市街地が広がっています。年平均気温は約12℃で、冬季の降水（雪）量が多く、日本海側の冬型気候の特徴が

顕著にみられる豪雪地帯です。

新庄開府400年を迎えて

本年度は、新庄市の礎を築いた戸沢藩の初代藩主である戸沢政盛公が寛永2年（1625年）に新庄城を築城し、領内を開いてから400年となる節目の年を迎えました。これを記念するため、本市では本年9月28日に新庄市民文化会館において記念式典を開催します。

式典では、直木賞作家で、本市の「しんじょう観光大使」でもある今村翔吾氏プロデュースの「ダンスプロジェクト羽州ぼろ鳶組」の披露や、歴史研究家の小和田哲男氏の基調講演、さらに、今村氏と小和田氏による対談も予定しています。

また、市内の多くの市民団体が自ら企画提案する「市民提案事業」

を実施していただき、記念すべき年を市民総参加で盛り上げていきます。本年度を、新たなまちづくりのスタートの年として掲げ、市民一人ひとりがまちの成り立ちを再認識し、郷土への愛着を深め、誇りを高く持てるよう新庄の魅力を広く内外に発信してまいります。

新庄まつり270年祭を契機とした伝統文化の継承

本市の夏の一大イベントである「新庄まつり」は、毎年8月24日から26日までの3日間にわたり開催されます。平成21年には山車行列が国指定重要無形民俗文化財に指定され、さらに平成28年には、日本の「山・鉾・屋台行事」



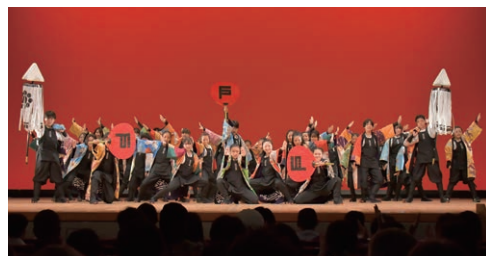
大勢の観光客でにぎわう新庄まつり

例年、約50万人の観光客をお迎えし、「お盆に帰省しなくても新庄まつりには必ず帰省する」という新庄出身者も多く、市民が最も待ち

のひとつとして、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。まつりの見どころは、町内単位で毎年作製する豪華絢爛な20台の山車行列、山車の後方で太鼓、笛、鉦、三味線の30〜40人で構成されるまつり囃子、侍や神官に扮した総勢約200人による古式ゆかしい神輿渡御行列、新庄城址で舞われる風雅な萩野鹿子踊・仁田山鹿子踊などで、いずれも藩政時代をしのばせる歴史絵巻が次々と繰り広げられます。



新庄まつり270年祭のポスター



ダンスプロジェクト羽州ぼろ鳶組のダンス



記念式典カウントダウンボード



「新庄エコロジーガーデン原蚕の杜」完成予定図



「新庄エコロジーガーデン原蚕の杜」鳥瞰(ちょうかん)図



新庄まつりの山車行列

焦がれ、最も燃え上がる3日間となります。

本年は270年祭として、25日の本まつりの観覧席が無料開放され、さらに「ダンスプロジェクト羽州ぼろ鳶組」のダンスパレードも行われるなど、例年になく盛り上がりを見せました。

270年の歴史が紡いできたまつりの価値と伝統を、これからも市民と共に大切に育んでいくとともに、皆さまもぜひおいでいただき、時空を超えて浮かび上がる夢幻の光景、四方から湧き上がる熱気と興奮をご体感ください。

新しい道の駅による 観光振興や交流人口 増加の取り組み

令和7年1月31日に本市初の道の駅となる、「新庄エ

コロジーガーデン原蚕の杜」が登録され、本年12月にオープンする見込みとなっています。

新しい道の駅には、山形県内における蚕糸業の発展を支えた蚕糸試験場設立期の主要施設が良好に保存され、平成25年

に国の登録有形文化財に登録された同名の新庄市エコロジーガーデン「原蚕の杜」があり、これまで、常設の産直施設である「まゆの郷」の他、カフェや宿泊施設、ドッグランなどを整備してきました。

登録有形文化財を内包して新設される全国的にも非常に珍しい形態となり、完成後は、エコロジーガーデンの歴史的価値や景観が利用者へ安らぎの空間を提供する新たな交流スポットとなることが期待されます。

新庄市ゼロカーボンシティ 宣言による脱炭素社会を 目指して

本市は、昨年12月23日に「新庄市ゼロカーボンシティ宣言」を行い、2050年までに二酸化炭素の排出量実質ゼロを目指すことを



多くの人でにぎわうキトマルシェ

民や事業者の皆さまと連携して地球温暖化対策を積極的に推進し、ゼロカーボンシティの実現に向け

プロフィール

- ◆ 面積 222・85 km²
- ◆ 人口 3万1981人
- ◆ 世帯数 1万3809世帯

〔将来都市像〕「住みよさ」をかたちに、市民一人ひとりが心の豊かさを実感できるまち

〔まちの特徴〕山形新幹線の始発駅で、鉄道や国道が東北地方のほぼ中央で東西南北に交わる交通の要衝のまち



新庄市長
山科朝則



〔特産品〕米、とりもつラーメン、くじらもち、最上早生(そば)、新庄東山焼、新庄亀織
〔観光〕新庄市エコロジーガーデン、新庄ふるさと歴史センター、新庄藩主戸沢家墓所、新庄城址(最上公園)、雪の里情報館
〔イベント〕新庄まつり、新庄カド焼きまつり、新庄味覚まつり、新庄そばまつり、新庄雪まつり、キトマルシェ

結びに

本市を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、さまざまな分野において克服していかなければならない課題が山積しています。人口減少がさらに進行していく中、安定的かつ持続可能な行財政運営に努めながら、市民の皆さまと共に「輝く未来へ 挑戦するまちづくり」に邁進してまいります。

て取り組んでいきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

地域の魅力を再発見 市民一丸となった プロモーションへ向けて

香取市は、千葉県の北東部に位置し、東京都心から約70km、成田空港から約15kmに位置し、北部には利根川が東西に流れ、その流域には、水郷の風情漂う水田地帯が広がり、南部は山林と畑を中心とした平たん地で北総台地の一角を占めています。豊かな水と肥沃な

日本一であり、市内の飲食店でも工夫を凝らしたマッシュルーム料理が提供されています。

「スローシティ」の推進

土地、そして温暖な気候に恵まれていることから、農業が基幹産業となっており、特に米とサツマイモは関東でも有数の生産地となっています。また、マッシュルームの生産量が

本市では、地域に根付く産業や歴史、文化といった地域資源を最大限活用したまちづくりを展開するため、第2次香取市総合計画で定める将来都市像の実現に向けたまちづくりを進めています。現在、社会情勢の変化は著しく、地域経済や人口構造の変化など本市の直面する課題は複雑多岐にわたります。そして、多くの自治体で人口減少が進み、地域間競争がますます激しさを増す中、いかに「香取らしさ」を追求するかが重要です。本市ならではの地域資源や個性を磨き独自性を発揮することで、市内外の認知度を高め、個性と魅力

あるまちづくりに取り組んでいるところとあります。その主な取り組みとして、スローシティの理念を取り入れたまちづくりを推進しています。スローシティとは、イタリア共和国発祥の、地域の歴史・文化・自然を大切にしながら等身大のまちづくりを目指す運動です。具体的には、令和6年11月に慶

應義塾大学と連携協力協定を締結し、大学生が地域の伝統行事や活動に参加しながら地域の魅力を再発見する地域研究を行っています。令和6年度は、13回の地域活動を行い、延べ200人弱の市民の方々と一緒に活動をしました。この運動を通じて、市民の皆さまにも、われわれの日常生活が貴重な地域資源であること、誇れる魅力あるものだということを再認識していただくことで、シビックプライドの醸成にもつなげているところです。



市内を流れる小野川

土地、そして温暖な気候に恵まれていることから、農業が基幹産業となっており、特に米とサツマイモは関東でも有数の生産地となっています。また、マッシュルームの生産量が

本市では、地域に根付く産業や歴史、文化といった地域資源を最大限活用したまちづくりを展開するため、第2次香取市総合計画で定める将来都市像の実現に向けたまちづくりを進めています。現在、社会情勢の変化は著しく、地域経済や人口構造の変化など本市の直面する課題は複雑多岐にわたります。そして、多くの自治体で人口減少が進み、地域間競争がますます激しさを増す中、いかに「香取らしさ」を追求するかが重要です。本市ならではの地域資源や個性を磨き独自性を発揮することで、市内外の認知度を高め、個性と魅力



慶應義塾大学との協定締結調印式



学生たちによる地域の方々との研究活動

発酵と観光のまちづくり

本市の文化の特徴の一つとして、古くから伝統として引き継がれる醤油や酒などの醸造文化をはじめとする発酵に関する歴史と文化があります。最盛期には「関東灘」とも言われるほど、市内の佐原地域に35



酒蔵見学



味噌づくり（発酵バスツアー inかとり）

もの酒蔵があり、江戸時代には利根川水運を利用した江戸との交流が隆盛を極め、醸造業をはじめとする商業が繁栄しました。その繁栄も明治31年の鉄道開通以来、陸運が主要となり徐々に衰退してきましたが、現在でも伝統の製法による醤油や酒、味噌などが醸造されています。

元の米で地酒を造りたい」と発足したプロジェクトなど、新たな酒造りなども行われてきました。さらに、令和4年には、6次産業化の取り組みとして、佐原の重要伝統的建造物群保存地区内において遊休物件となっていた建物で、クラフトビールの醸造と自家製チーズの製造が開始されました。店内で使用する食材はもちろんのこ

これから「発酵と観光のまちづくり」を市全体で推進していくため、発酵と観光のまちづくりに向けた情報交換の場として、「香取市発酵と観光のまちづくり連絡会議」を立ち上げ、市内外の各種団体、機関、行政が連携し、発酵文化および発酵食品を通じ、市民の健康増進および産業の振興による地域の活性化を図っていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 262.35km²
- ◆ 人口 6万8975人
- ◆ 世帯数 3万1617世帯

〔将来都市像〕豊かな暮らしを育む歴史文化・自然の郷 香取
「人が輝き 人が集うまち」

〔まちの特徴〕日本の原風景を感じさせる田園・里山、水郷筑波国定公園に位置する利根川周辺の自然景観、古い商家や土蔵が軒を連ねる佐原の町並みなど、水と緑に囲まれ、自然・歴史・文化に彩られたまち



香取市長
伊藤友則

結びに

令和8年3月には、香取市誕生から20周年を迎えます。これまでの20年を振り返るとともに、未来へとつながる持続可能な地域を構築するため、スローシティの活動や発酵文化といった地域資源の魅力を最大限引き出す取り組みを続けてまいります。



〔市町村合併〕平成18年3月27日、佐原市、小見川町、山田町、栗源町の1市3町が合併
〔特産品〕米（コシヒカリ、ふさおとめ）、さつまいも（紅はるか、シルクスイート）、マッシュルーム
〔観光〕香取神宮、伊能忠敬記念館、水郷佐原あやめパーク、道の駅・川の駅水の郷さわら、道の駅くりもと
〔イベント〕佐原の大祭、水郷おみがわ花火大会、いきいき山田鯉のぼりまつり、栗源のふるさと祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

公民連携を駆使し、 「こどもを核としたまち」の実現へ

三田市は、美しい農村風景、ニュータウンのまちなみ、にぎわいのある市街地そして四季折々の自然が融合する素晴らしいまちと多くの人から評価されています。

農畜産業も盛んで、三田牛や黒枝豆、三田米、母子茶などの特産品があります。これら素晴らしい

特産品を多くの人に認知してもらうことが今後の課題です。

また、複数の高速道路ネットワークの結節地点であるため、商工業地として最適な産業団地に50数社の企業が進出しています。市内で操業

する企業とさまざまな連携事業を進めることで「公民連携先進都市」というメッセージを打ち出し、発信していくことが重要だと考えています。

「公民連携先進都市」を目指す取り組み

「公民連携」は、本市のまちづくりを行う上で、欠かせない手法です。私は、市長就任以降、公民連携先進都市を目指し、スピード感を大事にしながら自らがセールスマン、時にはコーディネーターとなり、企業人と話のできる市長として数々の事例を実現してまいりました。公民連携にあたっては、公平性、公正性を確保しつつ、民間事業者などとの対等なパートナーシップのもと、互いの強みを生かしながら進めており、その連

携手法はさまざままで全てオーダーメイド的な協定となっており、より実効的な運用となっています。

特徴的な取り組みとして、神姫バス株式会社と進めている「担い手共創プロジェクト」があります。これは、「公共交通の担い手確保」を推進することを目的とした連携協定です。この目的に賛同いただき、「担い手共創プロジェクト」として2団体が参画しています。参画団体の一つである「兵庫ブルーサンダーズ」は、本市を拠点とする女子硬式野球の実業団チームで、選手は市内のさまざまな企業などで働きながら、野球を続けています。私は、社会人野球とリクルートの青田買いをヒントに、このスキームを考えました。選手は企業人との両立を前提で就職します。存分に野球に取り組み、引退

後に企業に専念するということができます。「担い手共創プロジェクト」はこういった団体ニーズに合致したのです。

また、神戸大学との包括連携協定では医療人材確保や、未来の子どもたちのために急性期医療を担う人材の確保、本市農畜産物のブランド化へ向けての検証など、幅広い分野でタッグを組み取り組んでいます。その他にも、市民の命を守るための多数企業との災害協定や、ニュータウンの再生に向けたイオン株式会社との包括連携協定およびイオンリテール株式会社



公共交通維持のための担い手共創プロジェクト



豊かな自然と里山に囲まれた農村地域



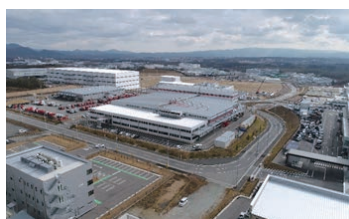
美しいまちなみのニュータウン

などとの個別協定を締結しています。このように、あらゆる課題を公民連携の視点で解決し、「新たな価値を創造する」「地域を活性化する」という信念をもって取り組みを進めているところです。

こどもを核としたまちづくりで住みたい・住み続けたいまちに

本市は、子ども・若者がこのまちに住み、生涯にわたって住み続けることに「不安」ではなく、「希望」を持てるまちを目指す「こどもを核としたまちづくり」を進めています。本市の人口は現在

約10万6000人ですが、令和16年度には1万人減少することに加え、75歳以上の人口は約6000人増える一方、20歳から74歳までの人口は1万人以上減少するという危機



多くの雇用を生み出している産業団地

ば最大50万円支給しています。これまでの支給額から大幅に増額しており、成果が出てきているところです。これは企業の働き方改革にも資するものと考え、近くに住むことで

的な状況になると見込んでいます。こどもを核としたまちづくりの実現に向けて、まず子育て世代に圧倒的に多い「経済的不安」を軽減し、子育て世代の定住促進や、子どもたちが健やかに育つ環境を整えるため、令和7年度は、中学生の給食と18歳までの医療費の完全無料化に加え、不妊・不育治療、新生児・1カ月児の健診の無料化など妊娠から子育て期まで切れ目のない支援を行うことで子育てへの安心感を訴求しました。

移住・定住については、本市には産業団地の企業や市内にある大企業などに約1万人が働いていて、その約半分の従業員が市外から通勤しているという実態があります。そこで、市外からの通勤者に移住してもらったら良いのではないかと発想し、市外からの通勤者が本市に住居を購入し、転入すれば

企業にとっても、従業員にとっても、本市にとってもメリットがあり、まさに「三方よし」の発想です。

最後に

三田市は、多くの魅力が詰まった味わいのあるまちです。多くの

プロフィール

- ◆ 面積 210・32 km²
- ◆ 人口 10万5981人
- ◆ 世帯数 4万7739世帯

〔将来都市像〕まちづくりの基本目標を「ひと」×「まち」×「さと」が織りなす未来都市三田」と掲げ、本市がもつ「ひと」「まち」「さと」の魅力を一枚の布のように織りなすことで新たな魅力を生み、育てるとともに、先端技術や新たな価値観等を取り入れた未来都市

〔まちの特徴〕兵庫県の南東部に位置し、市の南東部には耕作地のある三田盆地が開け、市内を貫流する武庫川が肥沃な農地を潤し、豊かな自然に恵まれている。市街地、農村、ニュータウン



三田市長
田村克也



市民が「このまちに住んでよかった」と実感でき、また、三田に「住んでみたい」と思ってもらうため、トップセールスにより「さんだ」を積極的に発信するなど、スピード感をもって全力投球で取り組んでいます。

ンが共存し、神戸・大阪圏への道路網、鉄道が整備されている都市と自然が隣接するまち

〔特産品〕三田米（コシヒカリ・どんとこい・ヤマフクモチ（もち米）・山田錦）・畜産業（三田牛）・三田うど・黒大豆枝豆・さんだくり南瓜・山の芋・極ぶとくん（ねぎ）・さんだいちご・母子茶など

〔観光〕県立有馬富士公園、千丈寺湖、ガラス工芸館、永澤寺と花しょうぶ園、花山院、人と自然の博物館、野外活動センター

〔イベント〕三田さくらまつり、さんだまち博、ノルディック・ウォーキングフェスタ、三田まつり、三田マスタースマソン、サンタ×三田プロジェクト

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

『楽しさ』、『豊かさ』、『美しさ』 三つの要素で目指すまちづくり

本州と四国をつなぐ瀬戸大橋が

架かる坂出市は、まさに四国の玄関口と言えるまちであり、優れた交通結節機能を有し、これまで重厚長大型の製造業を中心に「働くまち」として発展してきました。しかしながら、今後のまちづくりにおいては、暮らしの満足度向上とまちのイメージ転換を図る施策により、「働くまち」と「住むまち」の両立がポイントとなります。

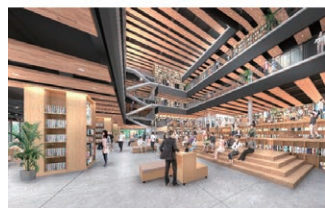
変わり始めたまちの景色 中心市街地の再生

本市の中心に位置する坂出駅は、県庁所在地の高松駅と約15分、本州の岡山駅と約40分で接続することから、JR四国管内で乗降客数第4位を誇り、1日1万人近い人が利用しています。近年では、その交通便利性から住宅需要

が高まっています。

さらなるエリア価値向上のため、坂出駅前の再整備を進めており、その中で中心となるのが図書館機能を核とする複合施設の整備です。図書館機能に子育て支援機能や地域交流センターとしての機能、加えてカフェやコワーキングスペース、地域物産エリアを設置することとで、「まちのリビング」と呼べる市民の居場所を創出します。複合施設は中央に吹き抜けを設け、各階を半階ずつ上下にずらしたスキップフロア形式を採用することとで、各階の活動が自然と目に留まり、さまざまな発見が施設のリピーターを生み出すようになります。

また、本市を東西に横断



駅前複合施設（令和10年度供用開始予定）

するさぬき浜街道では、瀬戸大橋に接続する坂出北インターチェンジのフルインター化と高松方面への4車線化を進めています。

今後の交通量の増加が予想されるさぬき浜街道を生かし、隣接

災害に強いまちづくり

する坂出緩衝緑地を開かれた公園へと再整備していきます。既存の緑を活用して魅力的な空間を創出し、カフェやフリーマーケットが実施できるスペースを整備することで、幅広い世代の方がゆっくりとした時間を過ごせる「明るく心地よい緑地」へと生まれ変わります。

本市において、防災対策上重視しなければならない災害の想定に南海トラフ地震があり、今後30年以内の発生確率が80%程度と「防災・減災対策」は喫緊の課題です。

南海トラフ地震の対策としては、大規模地震による人的・物的被害の軽減を目指し、効果的かつ効率的な地震・津波防災対策を講じるため、ハード対策およびソフト対策を組み合わせた多重防御を図ることが重要です。ハード対策では河川や海岸堤防のかさ上げや耐震対策など、優先度の高い箇所から計画的に整備を進めているほ



坂出緩衝緑地（令和9年度供用開始予定）

ゼロカーボンシティの実現に向けて

本市は令和3年9月に、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を行った後、本市の地球温暖化対策に関する基本方針と



周知用に作成した「さかいで防災ハンドブック」

か、ソフト対策促進のため、住宅の耐震化、家具の転倒防止対策、救助や復旧の妨げになる旧耐震基準の空き家除却の補助制度を設け、災害時の家屋倒壊リスクの軽減を図っています。

また、避難所の良好な生活環境を確保するため、避難所となる屋内運動場に空調設備を設置するほか、携帯トイレなどの備蓄物資の充実を図り、避難所の生活環境の向上に努めています。

これらの「防災・減災対策」を確実に推進し、充実強化を図ること



坂出番の州臨海工業団地と藻場の再生創出実証事業

なる「坂出市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定し、市域における温室効果ガス削減目標とその達成に向けた具体的施策をまとめました。

以後、本計画に基づき、国立大学法人香川大学と連携し、海中における二酸化炭素の吸収機能を持つ藻場の再生・創出をはじめ、民間事業者と連携し、市内公共施設などへの電気自動車用充電設備の設置およびペットボトルなどのワンウェイプラスチックの排出

プロフィール

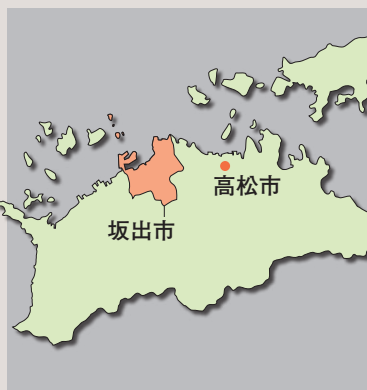


坂出市長
有田哲二

◆ 面積 92・46 km²
◆ 人口 4万9281人
◆ 世帯数 2万4570世帯

〔将来都市像〕すべての人がいきいきと輝き、安全で環境に優しく持続可能な、健康で安心して快適に暮らせるまち

〔まちの特徴〕香川県の中央部に位置し瀬戸内海や里山など豊かな自然に恵まれた瀬戸大橋が架かる四国の玄関都市



〔特産品〕讃岐うどん、醤油、サヌカイト、金時みかん、金時いも、金時にんじん、ブロッコリー

〔観光〕瀬戸大橋記念館、東山魁夷せとうち美術館、国宝神谷神社、讃岐富士、府中湖カヌー競技場

〔イベント〕瀬戸内国際芸術祭、さかいで大橋まつり、駅近さかいで楽市楽座、天狗マラソン大会

削減による環境負荷低減を目指した公共施設へのマイボトル用給水機の設置など、公民連携手法を積極的に活用し県内に先駆けたさまざまな取り組みを進めてまいりました。

また、令和5年度にはさらに多面的な視点から施策を進めるため、本市政策課内に「未来エネルギー推進係」を設置する中で、本市、香川県、番の州立地企業およ

び坂出商工会議所が構成員となった坂出市番の州コンビナート水素等利活用推進協議会を創設し、水素などの次世代エネルギーの調達・利活用に関する協議を現在進めています。

本市といたしましては、引き続き、公民連携を主軸とし、ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みを切れ目なく強力に推進してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。